

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果(○)と課題(▼)	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
【教育方針】 ※真理を求め正義を愛する心身の健全な人となること(健全) ※進取敢為の性と明朗闊達な風とをもつ人になること(明朗) ※敬愛と誠実の心をもって社会に生きる人となること(誠実) 【教育目標】 Global&Aware(世界へ、思いやりをもって) 【スクール・ミッション】 附属中学校を併置し、普通科を設置する高校として、国際交流や先進的な探究授業を教育の柱として、高い国際感覚や情報発信能力を身に付け、主体的・協働的に新たな価値を創造し、国際社会で活躍できる人材を育成する。	【成果】 ○「授業はわかりやすい」「学習内容に関する質問に丁寧に応じてくれる」と答えた生徒が80%を超えた。 ○オーストラリア姉妹校等への短期留学及び様々な国との交流が活発に行われるようになり、グローバル教育の充実と地域への発信ができた。生徒評価で「海外との交流を積極的に行っている」と答えた生徒は96%である。 ○ICT活用やパフォーマンス課題を充実させ、授業改善や多面的な評価ができた。「教え方で様々な工夫をしている」と答える生徒は89%を超えた。 ○希望進路の実現のため、多様な進路・進学先への対応を行った。「進路に関しての適切な情報を提供している」と答えた生徒は80%を超えた。 ○教育相談会議や個別の支援会議、いじめ対策会議の中で情報共有に努め、支援方法を検討し、組織的に対応できる態勢を構築できた。 【課題】 ▼園部高校を志望する中学生からの支持は実感できたものの、募集定員を満たすことはできなかった。スクール・ポリシーの具体化と効果的な広報の必要性を感じた。 ▼生徒評価で「部活動が活発である」と答えた生徒は59%にとどまった。引き続き、安心して生活できる学校づくりとともに特別活動等の活性化に取り組みたい。 ▼「土曜講座や進学補習は、学力向上や進路意識の向上に役立っている」という生徒は51%にとどまった。内容の工夫や効果的な取り組み方について、今後検討を進めていきたい。	(1)スクール・ポリシーの具体化とGAコース、GCコース、中高一貫教育の改革を推進する。 (2)学校の特色化、魅力化を推進し、中学3年生から選ばれる地元の公立高校として志願者数の増加を図る。 (3)各教科でのグローバルな視点を取り入れた授業や日本の伝統と文化を学ぶ授業、海外の学生との交流活動を推進する。 (4)答えのない課題に取り組み、ICTを活用して自分の考えを相手にわかりやすく表現する教育活動を行う。 (5)グローバルな視点や科学的な思考力を基盤としながら新たな価値を創造する教育活動を行う。 (6)多様な考え方を認め、多くの人と繋がり、協働しながら集団の意見をまとめる能力を養う。 (7)人権尊重を基盤とした社会生活で必要となる資質・能力を身につけ、生徒が主体的に学校生活を充実させる態度を育成する。 (8)生徒会活動や学校行事、部活動等の特別活動を活性化し、主体的・協働的に社会に貢献できる資質を養う。 (9)安心・安全を感じられるホームルーム運営と教育相談・支援体制をさらに充実させる。 (10)積極的な情報公開等による小・中学校や地域との連携を推進し、地域の力を教育活動に取り入れ、開かれた学校づくりと地域の活性化に寄与する。

評価領域	重点目標	具体的方策	中間	評価		成果と課題 次年度に向けての改善点
組織・運営	中高一貫教育の充実	高等学校と附属中学校がさらに連携を深め、6年間をととした指導計画及び指導体制のもと教育内容やカリキュラムを充実させ、附属中学校の志願者増を目指す。				
	国際理解教育の推進	オーストラリアやフランスとの交流を、各学級に割り当てることにより、多くの生徒が交流できる機会を設け、興味のある生徒が一步を踏み出そうとする行動力を育成する。				
	特色ある教育内容の発信	パンフレット、ポスター、ホームページ、For the FUTURE、学校説明会、報道機関への情報提供等を十分に活用して、園部高校の教育活動の意義や魅力ある情報を発信し、高等学校の志願者の増加に努める。				
学習支援	学習習慣の定着	予習・授業・復習等、日々の学習をとおして家庭学習や自主学習の習慣を身につけさせ、基礎学力の定着を図るとともに、取組を継続させる。				
	学力の向上の取組	コースの特色に応じた課題を設定し、言語活動を充実させるとともに、コミュニケーション能力の向上を図り主体的に学習に向かう姿勢を養う。				
	授業改善の取組	パフォーマンス課題の効果的な設定や観点別評価を意識した授業を計画し、授業改善に繋げる。				
	ICT教育の充実	BYODに対応したタブレットの有効な活用をはじめ、DXルームの効果的な活用について研究を進め、効果的な活用をとおして知的好奇心を高め、学力向上を図るとともにデジタル人材育成のための施設及び教育内容の充実を図る。				

評価領域	重点目標	具体的方策	中間	評価		成果と課題	次年度に向けての改善点
生徒支援	基本的な生活習慣の確立	遅刻や授業の無断欠課、身だしなみについての個別指導など、生活習慣の確立と高校生としてふさわしい行動ができるような指導をとおして、落ち着いて授業を受ける環境をつくる。					
	主体的に学校生活を送る態度の育成	生徒会活動、学校行事や部活動に主体的に参加する態度を育成し、充実した学校生活を送れるよう働きかける。					
	生徒指導の徹底	いじめ等のトラブルに対し、迅速かつ組織的に対策を講じる。また、問題行動の未然防止のため、生徒の些細な変化を見逃さず、関係分掌と連携した指導を進める。					
	教育相談・特別支援教育の推進	教育相談会議を中心に、個別の生徒の支援を検討し、改善に繋げる。また、必要に応じて積極的に外部機関と連携し、支援が円滑かつ効果的に進むよう努める。					
進路支援	コースの特色を踏まえた、個に応じた適切な進路支援	進路行事や説明会等について、学年部と連携しながら各学年、コースの状況や課題を踏まえ、最大限の効果が得られるように工夫する。模擬試験や各種アセスメントのデータ分析を行い、効果的に活用することで適切な進路指導に繋げる。					
	生徒の主体的な行動を促す進路支援	多様な進路に対応する情報を収集し、生徒一人一人がこだわりを持った主体的な進路選択ができるよう、進路行事や面談をとおして実現を図る支援を充実させる。					
	高大接続、新入試制度研究の継続	今後も変化する入試制度や高大接続が円滑に進むよう最新の情報収集を行う。特に、新課程入試3年目に向けて情報提供や入試対策に力を入れる。					
人権教育	人権教育の推進	学年ごとにテーマに応じた人権学習を年2回実施し、人権問題の実態と人権問題に対する適切な理解と認識をもち、人権問題に対する実践的態度を育成する。					
	人権意識の高揚	すべての教育活動をとおして、人権を尊重する心を育む。また、多様性を認め合える意識の醸成を図る。					
図書館活用	読書活動啓発のための、効果的な広報や図書館行事の企画運営	授業・調べ学習・学校行事等で活用できる資料の収集と提供を行う。また、図書館だよりの発行や図書委員会を中心としたイベントの企画運営を行い、図書活用を促す図書資料の紹介広報に努める。					
健康・安全教育	健康教育の充実	本校生徒の健康課題(体の健康と心の健康)に応じた健康教育を推進し、病気の予防や健康増進への意識を高める。					
	教育相談の充実	教育相談会議やケース会議を基盤として、生徒の状況や個性の理解を深め、SCによるカウンセリングを活用しながら、組織的に適切かつ具体的な支援を進める。					
管理	学校運営への効果的な支援	適時、適切な予算執行、他分掌等との調整をとおして、学校運営への効果的な支援を図る。					
	学習環境の整備充実	施設・設備の安全の確保・充実・適時の就学支援をとおして、生徒の学習環境の向上を図る。					
家庭・地域連携	家庭や地域社会との連携の強化	家庭・地域社会との適切な連携に努めると共に、小高・中高・高大連携の充実を図るとともに地域の活性化に向けた取組を行う。					
学習環境 安全管理	安心・安全で充実した教育活動のための施設設備の充実	校舎や設備の安全を確保し、生徒の学習環境の向上に繋がる施設設備の充実を図る。					